

福島県の経塚遺物展

解説目録

とき 昭和52年9月1日(木)～9月30日(金)
ところ 福島県文化センター歴史資料館展示室
主催 福島県文化センター・福島県教育委員会

経塚について

主として、法華経等の經典を書き写して、これを経筒や経箱などの容器に入れ、土の中に埋納し土盛りしたところを経塚とよびならわしている。

日本においては、慈覺大師円仁（七九四～八六四、平安時代前期の天台宗の僧）が比叡山の横川において始めた如法写経を契機として、およそ一〇世紀の終り頃から、先ず近畿地方に造営がはじまったとされている。

東北においては、これよりずっと遅れて、十二世紀に入ってからであるが、その最初のものが本県喜多方市の松野千光経塚であることは注目される。

経塚の造営は、その始めにおいて、平安時代に切実化した末法思想、つまり仏法が減ずるということを怖れて、これにそなえて經典を地下に埋め、後の人々に伝えようとしたのであるが、次第に自己中心的な私益のみを考えた造営に変わって来ると

一、天王寺経塚

平安時代後期
福島市飯坂町字天王寺

大檀主藤原真年縁友作者代

同姓代 同姓代

小勸進 白井友包 糸井国数

藤原貞清 縁友源代

藤井末遠 日田部貞家

小太良殿

佛子僧宴海 僧慶勢

高三九・五センチ

天王寺 稲石丸 犬子丸

源長宗縁友

右志者為慈尊三會之暁同令

一佛淨土往生也

承安元年歲次癸卯 八月十九日

取筆僧 長釜

とあり、この経筒は初め天王寺の如法

堂内に奉納されたのち、経塚として埋納されたことが知られる

信夫御庄天王寺如法堂

大勸進聖人僧定心

奉施人

敬白

天王寺の裏山頂上から明治三十二年（一八九九）一月に発見された経塚で陶製経筒（外筒）の他陶製壺が伴出している。

- (1) 陶製経筒（重文） 高二六・〇センチ
- (2) 陶製壺 高二五・六センチ
- (3) 陶製壺 高二九・七センチ
- (4) 陶製壺 高三九・五センチ

天王寺

いわれる。

経塚造営の最盛期は、平安時代の末期から鎌倉初期頃であるが、この時期の経塚は、法華信仰を中心とする天台宗関係の寺院近くや、修験の霊地等から発見される場合が多い。

経塚は、平安時代以後も鎌倉・室町・江戸と各時代を通して造営されるのであるが、ことに室町以後はかなり造営の主旨も内容も変わってしまった。

今回の展示においては、平安期の主要な経塚遺物をはじめ、室町・江戸時代の経塚遺物を一堂に展覧しており、経塚というものの理解を深めるには勿論のこと、信仰史、美術・工芸史的にもみるべきものと思われる。

この機会に多くの方々に高覧いただければ幸いである。

最後に、本展覧会に出陳の御協力を賜った方々、ならびに種々お手配いただいた関係教育委員会に対し厚く謝意を表するとともに、目録作成にあたって格別のご寄稿を賜った東京国立博物館の関先生に対し厚く御礼申し上げる次第である。



二、平沢寺経塚

平安時代後期
伊達郡桑折町

経筒拓本(県重文) 一幅

氏家 宏

文政五年(一八二二)開墾の折に発見、
承安元年(一一七一)銘の経筒が出土し

ているが早くから人出に渡り大正十二年
の震災のとき失われたという。幸い拓
本が伝えられ経筒には次のような銘文が
ある。

敬白

奉施入

伊達郡平沢寺如法銅

大観進聖人僧長胤

大檀主 僧永釜

糸井国数

藤原貞清

白井友包

藤井末遠

右志者為慈尊晚

一佛国土往生也

承安元年秋八月

二十八日午

三、行人壇経塚

室町時代
伊達郡靈山町下小国

(6) 木製品(外筒底部か)

大河内 勉

銅製経筒片に陰刻銘および墨書銘文が

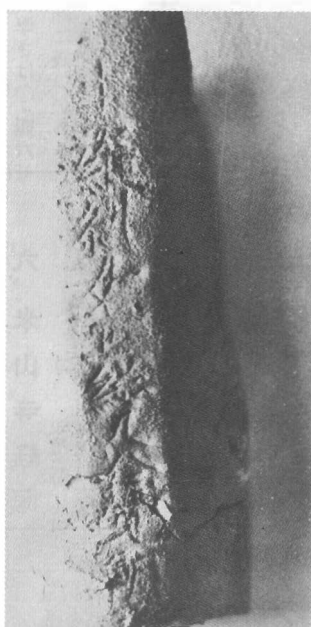
みられ、陰刻銘に

十羅刹女 上総□□住園明

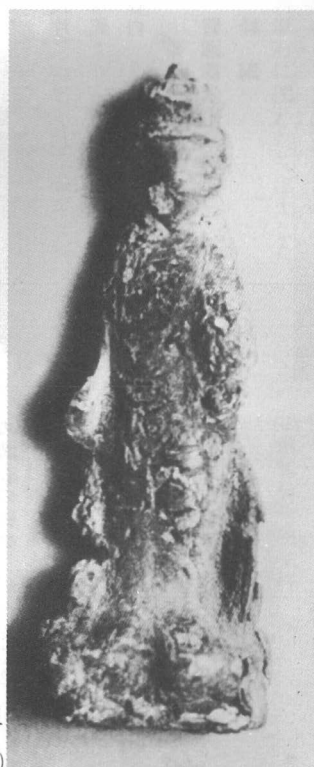
奉納経王六十六部第二典門

三十番神 天文三年吉旦

とある。



三一(1)



三一(2)



三一(3)

四、靈山経塚

平安時代後期
伊達郡靈山町大字大石

一三・六センチ、器壁の厚さは〇・四六センチと厚手である。底部に鋳口がある。

(1) 銅製経筒

総高 二六・四センチ

靈山神社

明治期に出土したらしいが、その折の記録等は不明である。造りが良く、また鋳上りも良い。口径



四―(1)

五、西田山経塚

鎌倉時代

伊達郡川俣町大字東福沢

(1) 灰釉陶製壺

川俣町教育委員会

昭和五十年五月二十四日より二十八日

にかけて発掘され、経塚と認められたもの一、近世の人骨を出した土壙墓一とその他石組遺構一が発見された。経塚遺構からは灰釉陶片一〇片と「元祐通宝」(宋銭)一枚が出土し、陶片を復厚したものが今回展示されている。陶片と宋銭からみてこの経塚は十三世紀初頭とされている。



五―(1)

六、米山寺経塚

平安時代後期
須賀川市大字西川

(1) 陶製経筒(重文)

総高二五・一センチ

(2) 銅製経筒(重文)

高二〇・七センチ

(3) 銅製経筒

総高二七・八センチ

(4) 銅製鏡(残欠)(重文)

(5) 銅製鐸(残欠)(重文)

(6) 須恵甕

高 三九・五センチ

日枝神社

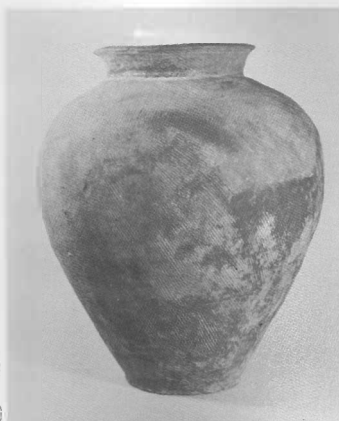
米山寺経塚は、明治十七年(一八八四)に発見され、銅製経筒、陶製外筒の他、甕一、刀子二、銅鏡一、懸仏残片一、鉄鍔残片二が出土し、陶製外筒には次のような銘文がある。

敬白

奉施入

磐瀬郡米山寺如法

経 銅



六―(6)

大勧進 聖人僧行祐
大檀主 僧円珍
糸井国数 藤原貞清
白井友包 藤原末遠
右志者為慈尊三會

晚同一佛浄土往生也

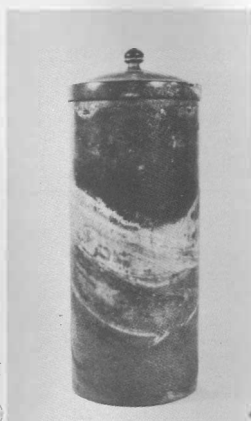
承安元癸八月廿八日 辛午

天王寺経筒銘、平沢寺経筒銘とともに同年号で、銘文中にある白井友包、糸井国数、藤原貞清、藤井末遠の四名は同一人物と思われ、三経塚に密接な関係があったことを意味している。

米山寺経塚は昭和五十一年(一九七六)の調査の結果、現在までに八基の経塚が確認されている。



六―(2)



六―(3)

七、天上林経塚

西白河郡東村字天上林

(1) 松藤双鳥鏡一面 面径一〇・六センチ
(2) 山吹鳥螺鏡一面 面径一〇・四センチ
岩越二郎氏の記録によると、岩越家昭和六年（一九三一）、釜子村深新井田字天上林（現 東村）の道路改修工事のときに出土したものである。銅鏡が四面出土し、このうち二面が今日伝えられている。経塚と称しているがその他詳細は不明である。



六—(1)



七—(1)

八、大塚山経塚

鎌倉時代
会津若松市一箕町

陶製壺（四耳壺）

会津若松市教育委員会

東北最古（四世紀末）とされる大塚山古墳（前方後円墳）の後円部墳丘より発見されたもので、直径約二〇センチほどの河原石に囲われて出土した。



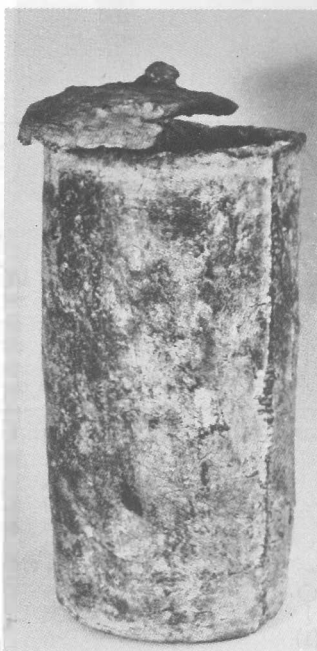
九、松野千光寺経塚

平安時代後期
喜多方市慶徳町

- (1) 銅製経筒 高 二五・五センチ
- (2) 銅製鍍金経筒 高 十四・〇センチ
- (3) 銅製五鈷鈴 高 十二・〇センチ
- (4) 銅製五鈷鈴 高 十二・四センチ
- (5) 銅製磬
- (6) 銅製鍍金独鈷杵

二瓶 忠

今回展示されなかったが、この経塚から発見された石櫃には「大治五年（一一三〇）歳次庚戌四月二日発西大檀越財主平孝家 散位源朝俊邦 縁支同氏」の銘があり、本県はもちろん、東北でも最も古い経塚である。実は、会津藩「家世実紀」によると江戸時代初期、寛文年間（一七六一～一七七〇）に一度発見されて埋めもどされたといわれる。昭和九年（一九三四）に再度発見された。出土遺物は今回展示のものの外に石製櫃、壺、刀片、鏝が出土している。



九—(1)

一〇、五職神経塚

室町時代
耶麻郡西会津町上野尻

九—(4)



(1) 銅製鍍金経筒

総高十一・七センチ

(2) 銅製鍍金経筒

高十一・八センチ

(3) 銅製鍍金経筒
(但し蓋欠失)

総高十二・二センチ

(4) 石製外櫃

高三五・三センチ

(5) 石製外櫃
(石蓋欠失)

高三四・五センチ

(6) 石製外櫃

総高三七・一センチ

群岡中学校

昭和二十六年(一九五二)

の工事中地下約一メートルの所で発見されたものであるが、発見時の状態等は不明である。

三口の銅経筒には、それぞれ次のような銘文がある。

(1) 奉納六十六部之

如法経一部願主

石川之住人

源心敬白

永正十五年^寅三月十八日

本願檀那妙庵

(2) 奉納

六十六部之如法経日幻心聖

善齊阿

奥州会津参州住人野尻山本

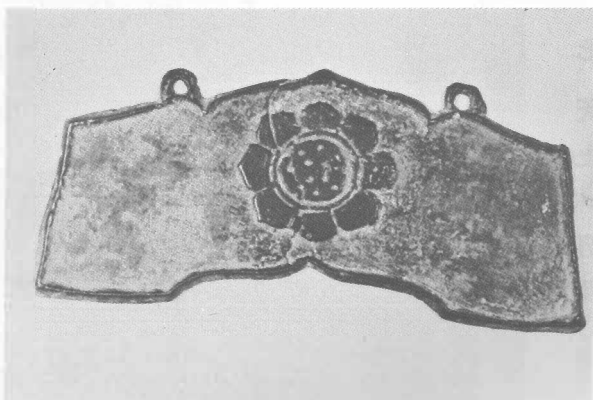
永正十六年^卯五月廿六日

(3) 六十六部如法経旦那

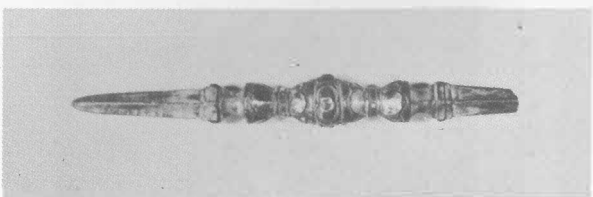
野

住人

九—(5)



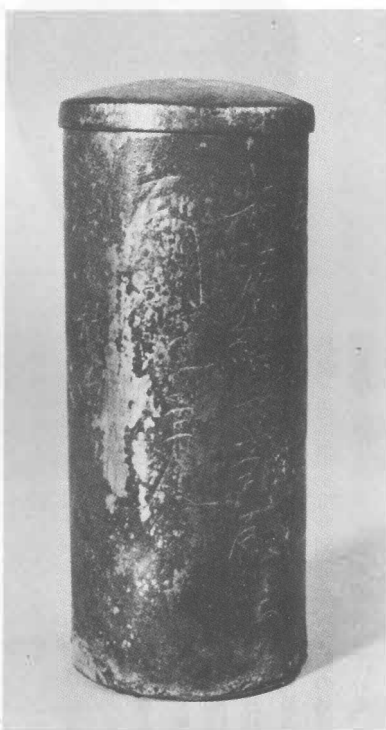
九—(6)



一〇—(6)



一〇—(1)



一一、奥の院経塚

室町時代か

大沼郡新鶴村根岸

銅製鍍金経筒 高九・八センチ

(但し上部欠損)

村松 繁穆

根岸の中田弘安寺銅造観音(重文) 鑄造場所と伝えられる奥之院近くから発見されたもので、次のような銘文がある。

十又刹女幡脇住一心坊

奉納経王一国十三部

三十丁神當年今月日

なお今回出陳されなかったがやはり鍍金銅製の経筒があり、次のような銘文がある。

十羅刹女 奥州住人道珍

梵字奉納大日妙典六十六部

三十番神 享禄五天八月吉日

(奥州会津新鶴村誌)による。

一二、館山経塚

鎌倉時代

大沼郡新鶴村館山

(1) 陶製壺(四耳壺) 高二九センチ

村松 繁穆

呉坪山経塚の壺同様平な石で蓋をされて発見されたという。底部に二・五センチ×二・一センチの小孔が外側からあらけられているのが注意される。

一三、呉坪山経塚

鎌倉時代

大沼郡新鶴村呉坪山

(1) 陶製壺(四耳壺) 高二〇・七センチ

村松 繁穆

壺は平な石で蓋をされ玉石に囲まれて発見されたというが、その他の出土状況は不明である。



一一—(1)



一二—(1)

一四、中目経塚

室町時代

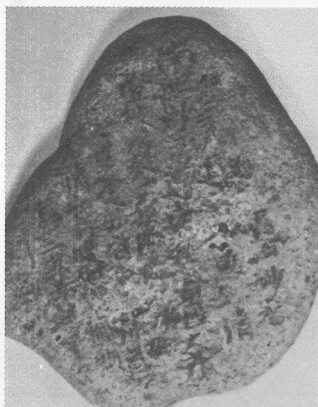
河沼郡会津坂下町中目

経石(一字一石経)

会津坂下町教育委員会

『新編会津風土記』にも一字一石経を埋納した旨の記録があり、昭和五十年(一九七五)四月に発掘された。

経石の一つに「願以此功德、普及於一切、我等与衆生、皆共成仏道□天文十三年甲辰九月十八日」とあり、この経塚の時代を知る上で貴重な資料となっている。



一五、茶碗塚経塚

中世末か

河沼郡会津坂下町塔寺

経石(一字一石経)

会津坂下町教育委員会

塔寺八幡神社そばの茶碗塚地蔵(石像)堂下より出土。



一六、供養壇経塚

中世末か

河沼郡柳津町野老沢

経石(一字一石経)

柳津町教育委員会

野老沢の通称グヨゲンと呼ばれる所から出土する一字一石経である。

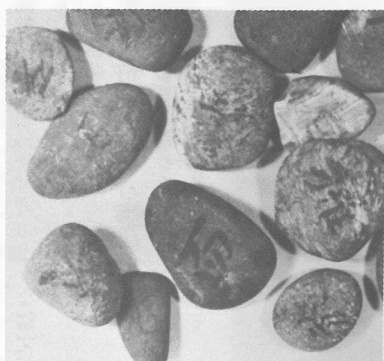
一七、釈迦堂経塚

江戸時代か
河沼郡柳津町

経石（一字一石経）

柳津町教育委員会

柳津町虚空蔵堂奥之院の釈迦堂床下から出土したものである。



一八、蔵王経塚

平安時代後期

伊達郡川俣町大綱木

銅製経筒 総高 二五センチ

奈良国立博物館

小幡山出土といわれ、別名小幡山経塚ともいう。実は、出土地点等詳しいことは不明で安達郡東和町の木幡山かもしれない。この経筒には紙本経典（法華経と思われる）八巻の塊と石製の外筒がある

一九、熊野神社経塚

平安時代後期

西白河郡大信村下小屋

銅製経筒 総高 二六・八センチ

東京国立博物館

内部にくず状になった墨書による紙本経典がある。その他出土状態等は不明である。



が今回は出品されなかった。石製外筒は盛蓋式の被せ蓋で身の口縁を印籠につくる。



福島県内経塚分布略図

- ①天王寺経塚（福島市）
- ②平沢寺経塚（桑折町）
- ③小倉寺経塚（福島市）
- ④行人塚経塚（霊山町）
- ⑤霊山経塚（霊山町）
- ⑥西田山経塚（川俣町）
- ⑦蔵王経塚（川俣町東和町）
- ⑧松倉経塚（双葉町）
- ⑨王宮経塚（郡山市）
- ⑩ハッ山田経塚（郡山市）
- ⑪米山寺経塚（須賀川市）
- ⑫熊野神社経塚（大信村）
- ⑬天上林経塚（東村）

- ⑭湯殿山経塚（喜多方市）
- ⑮松野千光寺経塚（喜多方市）
- ⑯五藏神経塚（西会津町）
- ⑰塔寺経塚（坂下町）
- ⑱茶碗塚経塚（坂下町）



- ⑲中目経塚（坂下町）
- ⑳供養塚経塚（柳津町）
- ㉑釈迦堂経塚（柳津町）
- ㉒大塚山経塚（若松市）
- ㉓奥の院経塚（新鶴村）
- ㉔兵坪山経塚（新鶴村）
- ㉕館山経塚（新鶴村）

福島県の経塚

関 秀 夫



福島県の経塚遺物展」を開催することになり準備がすすめられている。県内約二十カ所の経塚から出土した遺物を一堂に集めて公開するというのが、出品予定目録を拝見したところ、県内出土の主要な遺物のほとんどすべてが候補にのぼっており質的にもかなり期待できそうである。

* *

さて、ここでは、県内の経塚について最近の発見も含めて、これまでに判明しているものを整理しておきたい。

県内出土の経塚遺物には、紀年の明らかなものが次の九例知られている。

- (1) 大治五年（一一三〇）
喜多方市千光寺経塚出土の外櫃
- (2) 承安元年（一一七一）
福島市天王寺経塚出土の外筒
- (3) 承安元年（一一七一）
須賀川市米山寺経塚出土の外筒
- (4) 承安元年（一一七一）
伊達郡平沢寺経塚出土の外筒
- (5) 永正十五年（一一五八）
耶麻郡五職神経塚出土の経筒

(6) 永正十六年（一一五九）

耶麻郡五職神経塚出土の経筒

(7) 享禄五年（一一五三）

大沼郡奥之院経塚出土の経筒

(8) 天文十二年（一五四四）

河沼郡中目経塚出土の礫石経

(9) 永禄六年（一五六三）

喜多方市湯殿山神社経塚出土の経筒

このほかに、嘉元三年（一一三〇）の経塚供養碑が安達郡の元相応寺経塚に知られている。

畿内では十世紀末から経塚の営造がみられるが、福島県では大治五年（一一三〇）に営まれた喜多方市千光寺経塚が、もっとも早い例である。今のところ、東北地方でこれをさかのぼる例は発見されていない。関東地方では栃木県小野寺の長治元年（一一〇四）が早く、中部地方では山梨県勝沼の康和五年（一一〇三）が早い例である。こうした例から見ると中部以北では十二世紀になって経塚の営造がはじめられているようである。

* *

次に、最近調査されたものも含めて、これまでに福島県内で発見されている経塚遺跡をあげてみることにする。なお、『福島県史』等で経塚として扱われてきたものについては、研究の余地が残されているものも若干あるが、ここではそのままとりあげた。

経塚の地名は、奥羽街道に沿った中通り地方、太平洋岸に沿った浜通り地方、それに会津地方の三地区に分けた。

なお、地名にはそれぞれ参考となるべき文献をあげておいた。①②③等の数字はこの稿の最後にあげた参考文献の番号をあらわしている。

（中通り地方）

(1) 天王寺経塚（福島市飯坂町寺山）

遺物—陶製経筒（承安元年銘）一、陶製壺一、陶製甕二、瓦塔片一。

ほかに経巻、仏具、短刀などを出土したと伝えるが所在不明。

文献—④⑫⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖

(2) 王宮経塚（郡山市片平町三島山）

遺物—陶製壺二、和鏡（鏡背に如法経……の刻銘あり）一。

文献—⑮⑯⑰⑱㉒㉓㉔㉕

(3) 八ツ山田経塚（郡山市富久山町八山田）

遺物—和鏡一。

文献—⑮⑯㉒㉓

(4) 大乘院経塚（郡山市大重町）

遺物—礫石経を出土したと伝える。

文献—⑨⑮

(5) 米山寺経塚群（須賀川市西川字坂ノ上）

遺物—一号経塚—銅製経筒一、陶製外筒一、短刀四。ほかに朱書経巻一一（所在不明）

二号経塚—陶製甕一、鉄鎌五、短

門所蔵の銅製経筒（保延五年八月四日銘）の図が残されている。

〔浜通り地方〕

(45) 白水経塚（いわき市内郷白水町）

文献—(15)(18)(19)(23)

(46) 松倉経塚（双葉郡富岡町松倉）

遺物—銅製経筒一、白磁甕一、和鏡一。

文献—(18)(19)(23)(35)

(47) 権現山経塚（原町市江井）

文献—遺跡地図

以上のように福島県における経塚の分布は、中通りと会津地方に密であるが、浜通りにはわずか三例しかみられない。こうした分布現象について、三宅敏之氏は「古代郷土生活の歴史考古学—経塚を通じてみた福島県の場合」（昭和45）の中で、奥羽街道沿いの中通りに経塚营造の気運を持った杜寺が多かったということの意味している、と記されている。

〔参考文献〕

(1) 淡厓（神田孝平）「土中出願経巻実見記」

東京人類学会雑誌二〇（明治20）

(2) 犬塚又兵「雑記（須賀川経塚）」

東京人類学会雑誌二五（明治21）

(3) 佐藤重紀「東北地方旅行見聞」

東京人類学会雑誌三五（明治22）

(4) 大槻如電・大槻文彦「岩代国に於て発

見せる経筒の銘に就きて」考古一—五（明治33）

(5) 関保之助「岩代発見の経筒」考古界一一二（明治34）

(6) 若林勝邦「岩代国発見の経筒数種」考古界一一一（明治35）

(7) 木崎愛吉「大日本金石史一」（大正10）

(8) 二瓶清「大治年間の経塚発掘」北陽史談八—四（昭和4）

(9) 跡部勝邦「福島県下に遺存する供養碑に就て」史蹟名勝天然記念物五一七（昭和5）

(10) 二瓶清「大治五年経塚発掘」会津と考古特輯号（昭和10）

(11) 二瓶清「耶麻郡慶徳村大字松舞金山経塚発掘品に就いて」岩磐史談一—四（昭和11）

(12) 岩越二郎「福島県出土の承安元年篋書経筒に就いて」福島史学研究四（昭和29）

(13) 新鶴村誌編纂委員会「奥州会津新鶴村誌」（昭和34）

(14) 竹内理三「平安遺文金石文編」（昭和35）

(15) 内郷市教育委員会「白水阿弥陀堂苑池発掘調査報告書」（昭和37）

(16) 蔵田蔵「経塚論二」（東京国立博物館保管、東北地方出土の経塚遺物）MUSEUM一四八（昭和38）

(17) 奥村秀雄「経塚研究の一視点—藤井姓

に關して—」大和文化研究八—八（昭和38）

(18) 福島県「福島県史 六（考古資料）」（昭和39）

(19) 木口勝弘「奥州経塚の研究」（昭和40）

(20) 中村五郎「岩代承安経筒銘に見る藤井姓について」大和文化研究一〇—五（昭和40）

(21) 東京国立博物館「東京国立博物館図録—経塚遺物編—」（昭和42）

(22) 福島県教育委員会「文化財読本」（昭和45）

(23) 三宅敏之「古代郷土生活の歴史考古学—経塚を通じてみた福島県の場合—」（古代郷土史研究法）朝倉書店（昭和45）

(24) 須賀川市「須賀川市史二 中世編」（昭和48）

(25) 郡山市「郡山市史八」（昭和48）

(26) 奈良国立博物館「新館落成記念 経塚遺宝展（展覧目録）」（昭和48）

(27) 福島県考古学会「中目経塚」（福島県考古学年報四）（昭和49）

(28) 福島県考古学会「昭和四十九年福島県内埋蔵文化財発掘調査遺跡一覧表」（福島県考古学年報四）（昭和49）

(29) 金山町「金山町史上」（昭和49）

(30) 中村五郎「中目経塚遺跡」（日本考古学年報一七）（昭和49年度）

(31) 福島県考古学会「西田山経塚」（福島県考古学年報五）（昭和51）

(32) 中目経塚調査会「会津坂下町中目経塚」福島考古一七（昭和51）

(33) 須賀川市教育委員会「米山寺経塚一」（昭和51）

(34) 川俣町「川俣町史二（原始・古代・中世・近世資料編一）」（昭和51）

(35) 梅宮茂・目黒吉明・木本元治・丹羽茂「福島県内出土中世陶磁器について」しのお考古六（昭和52）

(36) 池田京子・長根裕子「天王寺経筒について」福島女子高校郷土史研究（昭和52）

(37) 吉田幸一「史跡米山寺・米山寺経塚群試掘調査速報」南奥古文化一（昭和52）

(38) 郡山市「郡山市史一」（昭和50）

(39) 会津坂下町「会津坂下町史二（文化編）」（昭和51）

(40) 会津若松市「会津若松市史 別巻一」（昭和39）

(41) 川俣町教育委員会編「西田山経塚発掘調査報告書」（昭和50）

(42) 川俣町教育委員会編「西田山経塚発掘調査報告書」（昭和50）

(43) 川俣町教育委員会編「西田山経塚発掘調査報告書」（昭和50）

(44) 川俣町教育委員会編「西田山経塚発掘調査報告書」（昭和50）

(45) 川俣町教育委員会編「西田山経塚発掘調査報告書」（昭和50）

考古学年報五）（昭和51）

(32) 中目経塚調査会「会津坂下町中目経塚」福島考古一七（昭和51）

(33) 須賀川市教育委員会「米山寺経塚一」（昭和51）

(34) 川俣町「川俣町史二（原始・古代・中世・近世資料編一）」（昭和51）

(35) 梅宮茂・目黒吉明・木本元治・丹羽茂「福島県内出土中世陶磁器について」しのお考古六（昭和52）

(36) 池田京子・長根裕子「天王寺経筒について」福島女子高校郷土史研究（昭和52）

(37) 吉田幸一「史跡米山寺・米山寺経塚群試掘調査速報」南奥古文化一（昭和52）

(38) 郡山市「郡山市史一」（昭和50）

(39) 会津坂下町「会津坂下町史二（文化編）」（昭和51）

(40) 会津若松市「会津若松市史 別巻一」（昭和39）

(41) 川俣町教育委員会編「西田山経塚発掘調査報告書」（昭和50）

(42) 川俣町教育委員会編「西田山経塚発掘調査報告書」（昭和50）

(43) 川俣町教育委員会編「西田山経塚発掘調査報告書」（昭和50）

(44) 川俣町教育委員会編「西田山経塚発掘調査報告書」（昭和50）

(45) 川俣町教育委員会編「西田山経塚発掘調査報告書」（昭和50）

(46) 川俣町教育委員会編「西田山経塚発掘調査報告書」（昭和50）

(47) 川俣町教育委員会編「西田山経塚発掘調査報告書」（昭和50）

(48) 川俣町教育委員会編「西田山経塚発掘調査報告書」（昭和50）

(49) 川俣町教育委員会編「西田山経塚発掘調査報告書」（昭和50）

(50) 川俣町教育委員会編「西田山経塚発掘調査報告書」（昭和50）

(51) 川俣町教育委員会編「西田山経塚発掘調査報告書」（昭和50）

(52) 川俣町教育委員会編「西田山経塚発掘調査報告書」（昭和50）

(53) 川俣町教育委員会編「西田山経塚発掘調査報告書」（昭和50）

(54) 川俣町教育委員会編「西田山経塚発掘調査報告書」（昭和50）

(55) 川俣町教育委員会編「西田山経塚発掘調査報告書」（昭和50）

(56) 川俣町教育委員会編「西田山経塚発掘調査報告書」（昭和50）

(57) 川俣町教育委員会編「西田山経塚発掘調査報告書」（昭和50）

(58) 川俣町教育委員会編「西田山経塚発掘調査報告書」（昭和50）

(59) 川俣町教育委員会編「西田山経塚発掘調査報告書」（昭和50）

東北地方の経塚遺物年表

西紀	年 号	遺 物	出 土 地	文 献
1130	大治 5	石 櫃	福島県喜多方市慶徳町松舞家	岩磐史談- 4
1140	保延 6	銅経筒	山形県南陽市宮内別所山	MUSEUM148
1149	久安 5	銅経筒	秋田県平鹿郡大森町八沢木	考古学雑誌42- 4
1167	仁安 2	銅経筒	山形市山寺	歴史考古12
1168	仁安 3	銅経筒	秋田県大曲市六郷東根一字山	考古学雑誌42- 4
1171	承安 1	陶外筒	福島市飯坂町寺山	考古1- 5
1171	承安 1	陶外筒	福島県須賀川市西川字坂ノ上米山寺経塚	考古界1- 3
1171	承安 1	陶外筒	福島県伊達郡桑折町平沢字一本松	福島史学研究 4
1184	寿永 3	銅経筒	秋田県湯沢市松岡外堀	考古学雑誌42- 4
1196	建久 7	銅経筒	秋田県湯沢市松岡外堀	考古学雑誌42- 4
1206	元久 3	銅経筒	秋田県横手市金沢町寺沢	考古学雑誌18- 1
1252	建長 4	銅経筒	山形県東田川郡羽黒町手向	歴史考古13
1283	弘安 6	礫石経	宮城県宮城郡利府町道安寺	東北歴史資料館研究紀要 1
1319	文保 3	銅経筒	山形県東田川郡羽黒町手向	歴史考古13
1376	永和 2	銅経筒	宮城県黒川郡富谷町二ノ関	考古学雑誌1- 5
1518	永正15	銅経筒	福島県耶麻郡西会津町群岡	『福島県史 6』昭和39年
1519	永正16	銅経筒	福島県耶麻郡西会津町群岡	『福島県史 6』昭和39年
1528	大永 8	銅経筒	宮城県牡鹿郡鮎川町網地島	東北歴史資料館研究紀要 1
1529	享禄 2	銅経筒	宮城県志田郡三本木町坂木館山	東北歴史資料館研究紀要 1
1531	享禄 4	銅経筒	宮城県仙台市愛宕山	東北歴史資料館研究紀要 1
1532	享禄 5	銅経筒	福島県大沼郡新鶴村中田	『奥州会津新鶴村誌』
1533	天文 2	銅経筒	山形県東置賜郡宮内町所部	歴史考古12
1535	天文 4	銅経筒	福島県伊達郡霊山町下小国	
1536	天文 5	銅経筒	山形県尾花沢市六沢	歴史考古12
1542	天文11	銅経筒	山形県米沢市窪田	歴史考古12
1544	天文13	礫石経	福島県河沼郡会津坂下町五香中目	福島考古17
1546	天文15	銅経筒	秋田県男鹿市脇本富永	秋田県の紀年遺物
1547	天文16	銅経筒	宮城県桃生郡河北村横川	考古学雑誌24- 11
1551	天文20	銅経筒	秋田県男鹿市脇本富永	秋田県の紀年遺物
1555	天文24	銅経筒	岩手県東磐井郡大東町猿沢	宮城県史17
1551 ~ 1555	天文2口	銅経筒	秋田県男鹿市脇本富永	秋田県の紀年遺物
1557	弘治 3	銅経筒	山形県東置賜郡川西町大舟	歴史考古12
1563	永禄 6	銅経筒	福島県喜多方市松山湯殿山神社	『福島県史 6』
1569	永禄12	銅経筒	岩手県東磐井郡大東町猿沢	宮城県史17
1584	天正12	銅経筒	岩手県遠野市小友	東京国立博物館紀要 4